

## ■ サンデンと環境

### 基本的な考え方

サンデングループは、地球環境問題が人類の最重要課題であるとの認識のもと、企業成長のコアを環境と定めています。また、メーカーとして技術開発（製品開発とモノづくり）と企業市民の一員としての社会貢献を環境活動の両輪として、企業活動のあらゆる面で環境に配慮した行動をグローバルに展開しています。

### Green Management

経営方針「環境から企業価値を創造する グローバルな力と品質力を基礎に環境をコアにして次の成長を果たす」を実現するために、グループ全体で環境経営を推進しています。製造拠点を中心にしたISO14001による環境マネジメントの実践、環境マインドを持った社員の育成、企業市民としての地域社会との協働を推進しています。

基盤となるISO14001は2015年度版への移行を終え、新たに中期経営計画と連動させて2020年度を最終年度とする「第4次中期環境基本方針」の達成に向けた環境活動への転換を図っています。

この基本計画では、従来から進めてきた自社グループの環境保全活動から、活動範囲をサプライチェーンに広げ、環境負荷の低減、製品含有化学物質の徹底管理、さらにはSDGsで挙げられた社会課題を解決する技術開発・製品開発へ挑戦することを目標としています。「環境大会」を通じ、海外拠点を含めたグループ全体への展開を行いました。

グローバル各拠点が環境活動の質を向上させるために、2010年度から毎年「環境活動レベル評価」を実施しています。その中で、環境問題の深刻化とそれを改善するための環境規制の強化が進められている中国エリアにおいては、中国各拠点の環境活動の成果を共有し、エリア全体のレベルアップや、環境リスクの低減、環境課題解決への貢献を目的に、第2回中国地区環境大会を開催しました。

環境マインドを持った社員の育成では、国内社員へeco検定（環境社会検定試験）の受検を、経営方針が発表された2009年度から推奨しています。社外講師によるエコセミナーや社内での勉強会を通じて、2017年度は114名の合格者（エコピープル）が誕生し、累計で2,395名のエコピープルが日々の業務で環境に配慮した活動を展開しています。

サンデンフォレストで行ってきた、近自然工法による造成、定期的に行っている生物数のモニタリングの実施、自然豊かなフィールドを活用した環境教育などの環境保全措置事例が、環境省で発行した生物多様性民間参画ガイドラインにおいて、これからの持続可能な開発の好事例として紹介されるとともに、環境影響評価法に関する事例としても紹介されました。これからも、先行事例として、サンデンフォレストの活動を発信していきます。

### Green Technology

世界中の人々およびお客さまの環境指向ニーズを的確に捉え、「冷やす・あたためる」のコア技術に「省エネ技術」を盛り込んだ「環境貢献新商品」を生み出す最先端の技術開発、商品開発を進めています。

自動車機器事業では、小型・軽量化、省動力化の技術開発に加え、冷媒に地球温暖化係数の小さい二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)を採用した、世界初の自動車用可変コンプレッサーの量産を開始しました。また、急速に普及が進んでいる電気自動車の暖房熱源をカバーし、冷暖房のバランスを考慮した新しい自動車空調機器、「電気自動車用高効率ヒートポンプシステム」の量産も開始しています。

WEB 環境への取り組み  
<https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=page&id=3>

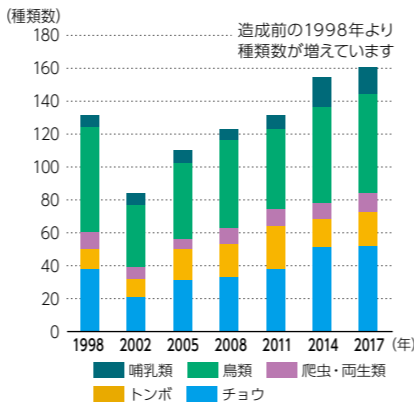


中国全9拠点が結集した「中国地区環境大会」

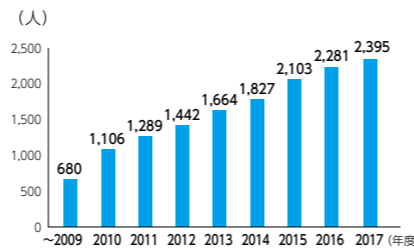


生物多様性活動が高く評価されている「サンデンフォレスト・赤城事業所」

#### 生物多様性モニタリングデータ



#### エコピープル数の推移



流通システム事業では、自然冷媒の自動販売機や冷凍・冷蔵ショーケースのラインアップを拡充するとともに、多様化する味覚嗜好に対応する生乳の鮮度管理、調理技術を開発し、コーヒーディスペンサー(クリスタII)を市場投入しました。また、海外の食品流通での食品ロスを低減するコールドチェーンシステムを提案しています。

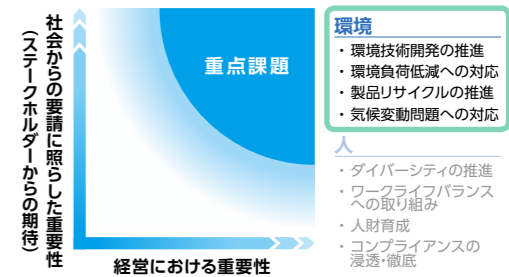
なお、当社グループでは、製品の環境貢献度を測る社内指数の「製品環境指標」を設定しています。2017年度の達成率は95%でした。

### Green Process

2017年度を最終年度とする「第3次中期環境基本方針」に基づき、製造段階でのエネルギー使用量削減、廃棄物削減、水使用量削減に取り組んできました。エネルギー使用量削減としては、生産方式の変更、生産性の向上や、エネルギー使用の見直し、燃料転換による効率機器の導入に取り組む、廃棄物排出量削減としては、海外拠点への管理教育、MFCA (Material Flow Cost Accounting) による発生源対策に取り組まれました。

国内流通システム事業では、製品組み立て工数ロスの最小化、顧客、後工程、マーケットニーズに即応するために、多品種少量生産に対応できる「フレキシブル生産ライン」を構築しました。

廃棄物削減活動として、MFCAを継続的に実施しています。2017年度は、鉄系材料において自社内からサプライチェーンに展開し活動した結果、サプライヤー内での加工時輸送コスト改善などが図られました。

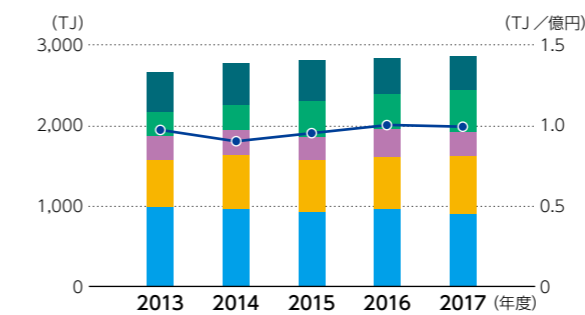


生乳を使用したドリップ式コーヒーディスペンサー(クリスタII)

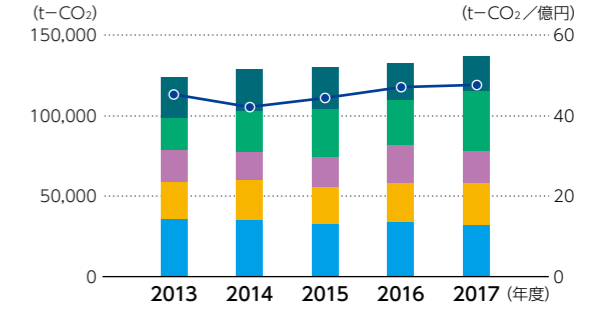


地元サプライヤーMFCAを実施

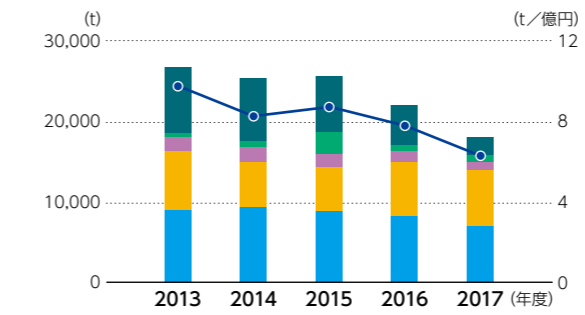
#### エネルギー使用量(地域別実績推移)



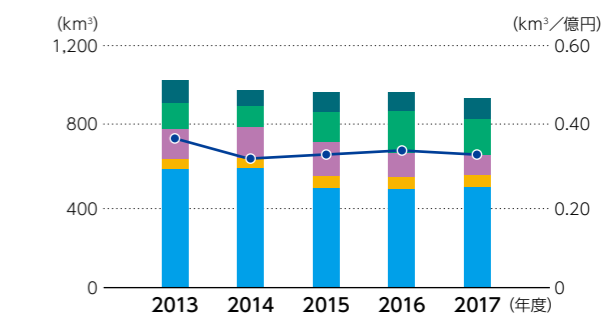
#### CO<sub>2</sub>排出量(地域別実績推移)



#### 廃棄物排出量(地域別実績推移)



#### 水使用量(地域別実績推移)



また、2017年度から継続している工場からの排熱等の有効活用を目指した「創エネ\*」や、水溶性切削油が原因で起こる職場環境悪化の改善、スラッジ等の廃棄物削減活動も継続的に推進しました。

海外拠点のSanden (Shanghai) Automotive Air-Conditioning Co., Ltd. (中国)が、継続的な省エネ、環境保全活動と空調機の省エネ推進が評価され、その地域から、省エネ活動、環境配慮等をテーマに200社が参加した、「金橋経済技術開発区省エネ等環境保護推進」で入選賞を受賞しました。

しかし、国内外の工場再編に伴う非正常操業や、国内における売上高減少などの影響により、エネルギー量は2016年度比1%の増加、エネルギー売上高原単位は、2016年度比1%の削減(2013年度比3%増加)となりました。なお、継続的なMFCA活動やごみ分別により、廃棄物排出量は2016年度比35%の削減、廃棄物排出量売上高原単位は、2016年度比32%の削減(2013年度比19%削減)でした。

第4次中期環境基本方針では、環境負荷低減、環境リスク低減を、環境の基本活動と位置付け、成長戦略に沿った活動を展開します。

### Green Communication

1993年に策定した「環境憲章」、2014年に策定した「生物多様性方針」のもと、サンデングループ社員は、企業市民の一員として地域環境活動へ積極的に参加しています。2017年度は、2002年に本格稼働させたサンデンフォレスト・赤城事業所での15年以上にわたる敷地内の緑化と、生態系の保全、またサンデンフォレストをフィールドにした環境教育活動が高く評価され、第5回「みどりの社会貢献賞」、第37回「緑の都市賞」国土交通大臣賞を受賞しました。

さらに、ESG投資への対応として、環境省が主導する「環境情報開示基盤整備活動」に参加しました。これからも、マルチステークホルダーとのコミュニケーションを企画・推進していきます。

\*工場、設備からの排熱、排風などの未利用エネルギーを活用して、新たなエネルギーをつくり出すことを目指した活動



環境活動が工業地区から高く評価(上海)



「緑の都市賞」国土交通大臣賞受賞

### 生物多様性



食堂廃棄物のコンポスト化(フランス)



サンデンフォレスト・赤城事業所 環境教育(日本)

### 社員による植林活動



社員による構内緑化活動(アメリカ)



フィリピン市植林活動参加(フィリピン)

### 地域清掃活動への参加



社員清掃活動(ポーランド)



赤城山大沼一斉清掃活動(日本)



千代田区一斉清掃の日(日本)



波志江沼清掃(日本)

### 2017年度目標と実績

2017年度を最終年度とする「中期環境基本方針」を基に、2017年度の環境活動とともに中期計画に対する評価も併せてご報告いたします。

WEB 2017年度目標と実績  
https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=18

※評価の基準(自己評価) A:達成 B:概ね達成 C:不十分

基本戦略	中期環境基本方針目標	2017年度環境目標	2017年度環境実績	中期環境基本方針評価
Green Management	環境活動レベル 全サイトA以上	環境活動レベル 全サイトAレベル達成	環境経営対象の25拠点で達成(73%)	B
		エリア別環境大会開催	第二回中国地区環境大会の開催	
		ISO改訂版への移行準備完了	全拠点で準備完了 ISO認証28拠点で2015年版への更新完了	
Green Technology	●新技術を用いた環境配慮製品の開発/上市  ●製品環境指標を量産機すべてで達成 (目標値は製品別に設定)	新規開発製品で製品環境指標 0.9以下(対象機種比)	達成度 95%	A
		製品ライフサイクル環境負荷算出	・食品流通機器で、スコープ3算出 ・自動車機器の使用段階負荷算出を工業会で検討	
		革新的な技術で環境配慮製品を開発する	・カーエアコン用CO <sub>2</sub> 冷媒コンプレッサー開発/上市 ・電気自動車用高効率ヒートポンプエアコン開発/上市 ・生乳使用のドリップ式コーヒーディスペンサーの開発/上市	
Green Process	環境負荷低減  ●エネルギー使用量 15%以上  ●廃棄物排出量 15%以上  ●水使用量 5%以上  ●有害化学物質 排出量 5%以上 (すべて売上高原単位、2013 年度実績比)	CO <sub>2</sub> 排出量売上高原単位 8%削減(前年度比)	原単位: 1%増加(中期目標比) 総量: 1%増加 原単位: 10%増加	B
		廃棄物排出量売上高原単位 8%削減(前年度比)	原単位: 19%削減(中期目標比) 総量: 35%削減 原単位: 32%削減	
		(国内事業所/関連会社) ゼロエミッション(再資源化率 99%以上)の継続	継続中	
		水使用量 2%削減(前年度比)	原単位: 3%削減(中期目標比) 総量: 11%削減 原単位: 7%削減	
		(国内事業所) 有害化学物質排出量 2%削減(前年度比)	10%削減	
		(国内) 輸送でのエネルギー使用原単位を 1%削減(前年度比)	3%削減	
Green Communication	生物多様性活動の グローバル展開  外部評価の獲得	環境保全活動への参画	・各拠点で植林活動展開 ・地域植林/清掃活動へ積極的に参加	A
		表彰制度へのエントリー	・みどりの社会貢献賞受賞 ・緑の都市賞:国土交通大臣賞受賞	

## サンデンとお客さま

### 基本的な考え方

サンデングループは、社是に「顧客のためになるよい製品を作ります」を掲げています。技術開発とモノづくりを基本として品質を第一に考え、魅力のある製品・システム・サービスを提供します。品質のつくりこみについては、事実情報を入手して関係部門で情報を共有し、PDCAサイクルを回して改善活動を進めていきます。

WEB [お客さま  
https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=10](https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=10)

### 品質向上を目指してSTQM活動を進化

1994年に、独自の全社的マネジメント品質改革活動STQM (Sanden Total Quality Management) 活動をスタートさせ、世界トップクラスの経営品質を目指してきました。STQMとは、「個々のマネジメント品質、及び、結果品質を徹底的に向上させて、21世紀に繁栄する会社を創り上げるため、毎日、毎日の創造改革努力を積み重ねる行動である」と定義しています。当社グループでは、日々変化する市場やお客さまの要求に応え続け、最高レベルの提供品質を実現すべく、これまでの改善・改革活動に加えて、顧客第一を再度徹底する「カスタマー・ファースト活動」を2017年度より展開しています。また、この改善活動は、全世界の当社グループに展開されており、「グローバル・エクセレント・カンパニーズ」の実現に邁進しています。



企業理念体系



赤城事業所フレキシブルライン本格稼働



第10回STQM世界大会開催

### 17年～18年活動結果紹介

- QCサークル群馬地区 チャンピオン大会  
群馬県知事賞 SW-HYサークル(サンデン・ビジネスエキスパート)
- QCサークル群馬地区 総会大会  
春季 大会賞 SW-HYサークル(サンデン・ビジネスエキスパート)/プレスランドサークル(サンワファブテック)  
秋季 大会賞 CHIRITSUMOサークル(サンデン・リテールシステム)/5・セブン(サンデン物流)  
春季 大会賞 SMASH HITサークル(サンデン・ビジネスエキスパート)/ホットフォーミングサークル(サンデン・オートモーティブコンポーネント)

### お客さまの価値創出のためのグローバル開発

グローバル4極開発体制(日本・欧州・北米・アジア/中国)のもと、開発・モノづくり活動を進めています。その中で、近年グローバルで多様に変化する市場や、お客さまの求める価値をより確実に製品という形にするために、事業会社の開発部門(日本)が、お客さまへの新製品・新技術提案を軸とした、基本となる新技術開発を主体的かつ積極的に行っています。併せて、材料技術、信頼性技術および生産技術等、グローバルでの技術支援を幅広く展開するグローバル一体開発により、さらなるお客さま価値の向上に努めています。

### 改善基盤の強化と継続

一般財団法人日本科学技術連盟主催のQCサークル群馬地区の2017年春季総大会において、三季連続して大会賞を受賞しました。

### 海外企業の品質力向上支援

一般財団法人海外産業人材育成協会(AOTS)主催の海外企業の経営者を対象にした品質管理研修で、当社グループのSTQM活動と、全日本選抜QCサークル大会において銀賞を受賞したホットフォーミングサークルの組織力向上事例を紹介しました。

### お客さま満足度向上への取り組み

事業会社ごとに方針・施策を立案し、お客さま満足度向上に取り組んでいます。具体的には、お客さまとの毎月の定例会議の開催や、年1回のヒアリングによる評価、またアフターサービスを提供したお客さまに対する満足度調査等を実施しています。お客さまサービスセンター(国内)では、製品に関するお問い合わせやサービス依頼を365日受け付けています。これらの活動を通じて、お客さまの声を把握・分析し、サービス活動や製品の改善、新製品開発につなげています。

## サンデンと取引先

### 基本的な考え方

サンデングループが取り組んでいるCSR推進活動を取引先にご理解いただくとともに、ビジネスにおけるリスク低減と機会創出の観点から、サプライチェーン全体での共創活動を推進します。また、グローバルに展開する当社グループの継続的発展には、競争力のある材料・部品が不可欠です。取引先とは、真のビジネスパートナーとして信頼関係の構築に努めます。

WEB [取引先  
https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=4](https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=4)

### 取引先との取り組み

「G-CF会\*」は、当社グループのビジネスパートナーである取引先の生産活動や、当社グループ製品の拡販活動に対して感謝をするとともに、当社グループがグローバルに取り組む経営活動をご理解いただき、強固な信頼関係を築くための会として開催しています。2018年2月にG-CF会を開催し、グローバルでの主要な取引先へ経営方針および調達方針について説明し、共有を図りました。今年も、国内61社、海外22社、計83社(167名)の取引先にご参加いただきました。その中で、当社グループに多大な貢献をしていただきました15社に感謝状を贈呈させていただくとともに、当社MPS方針より、エンジニアリングチェーンとサプライチェーンの活動で顕著な成果を上げ、当社の技術開発・商品競争力に貢献していただきました優秀事例を「Green Product賞」(優良環境技術提案)として表彰し、その取り組み内容について発表していただきました。

\*Global Create Future会



2018年サンデンG-CF会 取引先表彰

## サンデンと株主・投資家

### 基本的な考え方

当社グループは、株主や投資家の皆さまに長期的にご支援いただくため、投資判断に有益な会社状況について、説明責任を遂行することが重要であると考え、積極的なコミュニケーションに努めています。また、従来より注力しているESGの観点からも、対話を充実してまいります。

WEB [株主・投資家  
https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=9](https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=9)

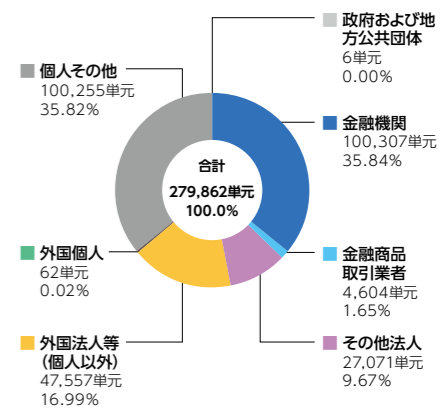
### 情報開示

当社をご理解いただくために、四半期ごとに決算短信(日英)を発行し、当社の経営理念や経営戦略、中期経営計画等について、当社ホームページや有価証券報告書等で公表しています。第2四半期と第4四半期に金融機関・機関投資家向けに決算説明会を行い、資料(日英)を当社ウェブサイトに掲載してフェアディスクロージャーに対応しています。

### 株主・投資家とのコミュニケーション

株主・機関投資家の皆さまとは、年間110回以上の個別ミーティングやスモールミーティングを通じ、当社の経営戦略や中期経営計画ならびに活動状況の説明を行うと同時に、貴重なご意見を伺う等、双方向のコミュニケーションを深め、株主・投資家の皆さまとの信頼関係構築に努めてまいりました。また、海外の株主・投資家の皆さまとも、電話会議の頻度を増やすことで、よりタイムリーなコミュニケーションを図ってまいりました。引き続き、株主・投資家の皆さまの信頼と期待に応えるため、さらなるコミュニケーションの促進を図ってまいります。

### 所有者別株式数分布状況



※上記円グラフにおいて、自己株式1名(1,671単位)は「個人その他」に含まれています。

## サンデンと社員

WEB 社員  
<https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=12>

### 基本的な考え方

労働生産年齢人口の減少や少子高齢化社会を見据え、社員一人ひとりが能力を十分に発揮し、生き生きと働けるよう、職場環境を整備することが、企業としての成長につながると考えています。また、社員の心身の健康保持と徹底した労働安全衛生の確保に努め、ワークライフバランスに配慮した職場環境づくりに注力しています。

### 「企業は人なり」の理念を実践

「人と組織のチームワークこそ会社繁栄の礎」。企業創業の精神として脈々と受け継がれるこの基本思想のもと、社員が意欲に満ち、グローバルに活躍できる会社を目指しています。

### グローバル人材の登用と活性化

事業のグローバル展開をさらに加速させていくのに伴い、人材の育成と登用をグローバルで行うことを重要な施策のひとつとして位置付けています。

人事部門では、年に2回、主要現地法人の人事担当者を交えたグローバル人事責任者会議を開催しています。そこで、グローバルサンデングループの人材登用と活性化のために、人事課題の共有や活性化施策について話し合っています。

### ダイバーシティ意見交換会開催

ダイバーシティや女性活躍推進の理解促進、女性のロールモデル発掘、働きやすい職場づくりのため、小グループでの意見交換会を2017年12月から定期的の実施し、2018年6月までに赤城事業所で2回、八斗島事業所で2回、東京本社で1回開催しました。

その中で抽出した課題は、メンバーで改善策を考案し、会社や労働組合と協働で計画的に改善を図っています。

### ダイバーシティへの取り組み

#### 人事に関するデータ

(単位：人)

		2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
社員数		2,407	2,394	2,304	2,481
外国人	社員数	23	23	29	30
	執行役員	2	0	2	0
	部長職	3	0	0	3
	管理職(部長職含む)	3	4	5	6
女性	社員数	279	284	298	315
	執行役員	0	0	1	1
	部長職	3	3	2	4
	管理職(部長職含む)	10	13	10	12
外国人採用数(新卒)	2	1	5	3	
障がい者数	79 (2.12%)	86 (2.28%)	100 (2.84%)	105 (2.70%)	

※1 各年度3月末時点。  
 ※2 サンデンホールディングスおよび7事業会社の数値となります。ただし、障がい者数はサンデンホールディングスおよび7事業会社、サンデンプライベートパートナー、三和、サンフアブテック、サンデンシステムエンジニアリング、エスディ・メンテナンス、ホンダカーズ高崎の数値となります。  
 ※3 重度障がい者は1人で2人算定としています。  
 ※4 ( )内は障がい者雇用率の数値となります。



グローバル人事責任者会議

#### 当社グループ 厚生労働省に提出の行動計画

- 1.計画期間  
 2017年12月1日～2019年3月31日(1年間)  
 ※2018年度末に総括し、次年度の行動計画を再構築するため、年単位の行動計画とする。
- 2.当社の課題  
 (1)女性管理職候補者の増大  
 (2)女性社員比率の向上  
 (3)リーダー人材の育成強化  
 (4)生産性を高める働き方の整備
- 3.目標  

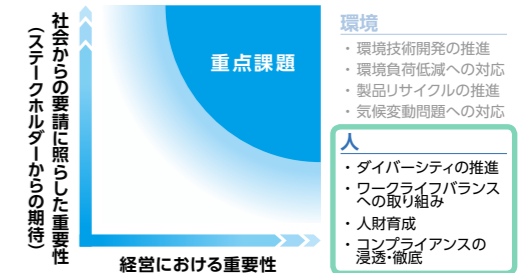
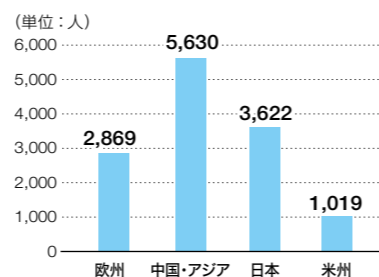
1	女性管理職数を2014年時点に対し、2020年に3倍、2030年に5倍にする。
2	新卒採用時の女性比率を15%以上にする。
3	リーダー人材の育成強化を実施する。
4	生産性を高める働き方を整備する。



ダイバーシティ意見交換会

#### 地域別社員数

(単位：人)



### 人財育成の推進

サンデンホールディングスおよび7事業会社は、「人づくり」こそ会社の将来を左右する最大の経営課題と認識し、「人間力」を原点到「技術力」を兼ね備えた人材を育成するという基本精神のもと、社員教育を実施しています。

#### SDC 教育体系の全体図

階層	階層別教育	選抜教育	専門教育	自己啓発
上級管理職		経営塾 短期MBA		
管理職	管理職研修 主任・係長級研修	ビジネススクール コーチング研修	職種別専門教育	通信教育・社外研修
一般職	中堅社員研修 入社3年目研修 新入社員研修	ファシリテーション研修		

### 「健康経営優良法人(ホワイト500) 2018」に認定

サンデンホールディングスおよび7事業会社は、2018年2月20日、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2018(大企業部門)」に認定されました。

2017年度は、「安全第一、全員参加の安全衛生活動で、安全で安心して働ける職場をつくる」という安全衛生方針に基づき、安全活動を実施しました。重点施策としては、メンタル不調の未然防止を目的に、ストレスチェックの職場分析結果に基づき、全職場で環境改善を実践しました。

### 安全衛生活動の推進

サンデングループは、安全衛生において、重篤な傷病につながるおそれのある危険有害リスクの低減を最優先課題として、すべての職場や作業に対するリスクアセスメントを進め、リスクの把握からリスクの除去に向けた作業方法の見直し、リスクの低減、管理を目的とした設備改修、社員への教育訓練の徹底などを計画的に進めています。中央安全衛生委員会を中心に、拠点ごとに特化した問題・課題を5S活動やヒヤリハット教育の実施により、社員一人ひとりが危険意識を高めるよう取り組んでいます。

### ワークライフバランスの推進

サンデンホールディングスおよび7事業会社は「ワークライフバランス」向上のため、有給休暇の取得を推進しています。有休取得率60%を掲げ、計画的な取得を促すとともに、現在実施している勤務時間短縮、残業時間の削減、フレックス勤務に加え、さらなる多様性に対応した勤務形態導入を検討しています。

2018年7月には、「2018年テレワーク・デイズ\*」に「実施団体」として参加し、東京勤務の社員数名を対象にワークライフマネジメントの実現のため、テレワークのトライアルを実施しました。



サンデンコミュニケーションプラザ(埼玉県本庄市)：新入社員研修をはじめ、階層別や選抜教育を実施する当社グループの研修施設

#### 社員教育受講者数

(単位：人)

	2015年度	2016年度	2017年度
総人数	371	246	324



職場環境改善研修の様子



\*テレワーク・デイズは、総務省、厚生労働省、経済産業省、国土交通省、内閣官房、内閣府と東京都および関連団体、企業が連携し、働き方改革を推進する国民運動です。

サンデンと地域社会

WEB 社会貢献活動  
https://www.sanden.co.jp/environment/activity.html

2017年度社会活動目標と実績

WEB 2017年度社会活動目標と実績  
https://www.sanden.co.jp/csr/disp.cgi?mode=detail&id=18

※評価の基準(自己評価) A:達成 B:概ね達成 C:不十分

基本的な考え方

持続可能な地域社会の実現のため、サンデングループは、様々な活動を通じて地域社会と深くかかわり、企業市民としての役割を果たしています。

【日本】地域活性化人財育成プログラム

当社グループは、独自の地域人財育成プログラムを実施しています。

対象	期間	名称	協力企業・団体
社会人	2017年11月～2018年2月	早稲田大学連携ビジネススクール	早稲田大学WBS研究センター/伊勢崎市/伊勢崎市教育委員会
大学生	2017年4月～2018年3月	サンデン環境みらい財団「環境ネットワークキャンパス」	群馬大学/高崎経済大学/早稲田大学/共愛学園前橋国際大学
		サンデン環境みらい財団「GLOBAL E-Cam」	足利大学
高校生	2017年8月	「夏のリコチャレ(理工チャレンジ)」	内閣府/群馬大学理工学部
	2017年7月～9月	伊勢崎市ビジネス体験事業「いせさきソーシャルデザインアワード」	伊勢崎市教育委員会
小中学生	2017年8月	サンデンまえばしロボコン2017	前橋市/前橋テクノフォーラム実行委員会
	2017年7月	伊勢崎市ものづくり体験事業「MONOLABO」	伊勢崎市教育委員会/株式会社モノファクトリー



環境ネットワークキャンパス



MONOLABO

【日本】第6回福島復興支援バレーボール教室

2018年4月、サンデングループエコアーズ(女子バレーボール部)は、デンソーテン レッドフェニックス(兵庫県)と合同で、福島県伊達市・相馬市の小中学生を対象に、今年で6回目となる福島復興支援バレーボール教室を開催しました。



第6回福島復興支援バレーボール教室

【フィリピン】KISS MEプロジェクトに協賛し、大型冷凍庫を寄贈

2017年11月、Sanden International Philippines, Inc.(フィリピン)は、政府軍の兵士たちを慰労するフィリピン農業省の「KISS MEプロジェクト」に協賛し、大型冷凍庫を5名の負傷した兵士たちへ寄贈しました。



KISS MEプロジェクト

【ポーランド】Smile for Penny キャンペーンを通じて寄付

2018年1月、Sanden Manufacturing Poland sp. z o.o.(ポーランド)では、チャリティ活動「Smile for Penny」を通じてPLN11,000(約36万円)が集められ、地域の孤児院や子どもたちへの治療費として寄付されました。



チャリティ活動「Smile for Penny」

【アメリカ】ハリケーン被害地区へ自主支援

2017年9月、SandenVendo America Inc.(アメリカ)は、8月24日に上陸した大型ハリケーン(Harvey)による甚大な被害を受けたテキサス州ヒューストン地区へ、救助活動や食料提供などの自主的な支援活動を行いました。

【中国】GUNMAから世界へ

2018年3月、Sanden Holdings Corporation Shanghai Representative Office(中国)が、群馬大学関係者を受け入れ、当社グループが参画する「グローバル・ハタラクラスぐんま」プロジェクトに関連し、グローバルな視点を持つ次世代へのキャリア開発について意見交換を行いました。

対象項目	2017年度目標	2017年度実績	評価	2018年度目標	
お客様	品質管理	①KPIのモニタリングによる早期問題撲滅 ②組織能力向上のための品質キーマン育成	①【製品品質のプロセス再構築】の展開において、品質ダッシュボードによるモニタリングにより、開発問題の防止「出さない」、生産問題の防止「止める」、市場問題の処置「消す」の改善を促進 ②QA道場をSQC教育による技術者のポテンシャル向上から、固有技術とSQCを融合させた問題解決活動に変化させ、教育の場から組織能力向上の場に変革	A	①製品品質のプロセス再構築の展開において、品質ダッシュボードによるモニタリングのGLOBAL展開の促進 ②固有技術とSQCを融合させた問題解決活動テーマの拡大
		【活動内容】 グローバル品質体制強化による顧客信頼回復 【数値目標】 重要品質問題ゼロ	①今後の電動ビジネス拡大に向けた品質保証体制の構築と品質不具合未然防止活動を開始 ②新国際品質基準であるIATF16949への切替えに伴い、新品質マネジメントシステムへの移行を開始(18年度認証予定) ③新製品開発に向けた品質体制を変更 ④品質本部にフロントローディングを強化する「製品品質保証部」と、工場生産変化に伴う生産品質を向上する「生産品質保証部」を設置	B	①電動ビジネス拡大に向けた新品質保証体制の構築において重要品質問題ゼロ ②顧客個別要求取込みとIATF16949をベースとした新品質マネジメントシステムへの移行においてIATF16949認証取得 ③コーヒー系製品拡大に向けた品質確立体制の構築において、重要品質問題ゼロ ④OEM製品の品質維持向上の取り組みにおいて、不具合AS費用、工数の低減
	営業	お客様満足度調査の実施	①お客様への直接訪問によるVOCの収集 ②サービス部門によるお客様満足度調査実施 ③新製品に対する市場評価実施	A	①VOC収集活動の継続 ②サービス部門によるお客様満足度調査の継続 ③新製品に対する市場評価の継続
	サービス	地球環境へ配慮した物流活動の推進 ①荷姿改善による包装材の削減 ②共同集配による輸送便の削減 ③他社協業によるコンテナラウンドユースの実施 ④新規海外輸送ルート開拓による輸送L/T短縮 ⑤モーダルシフトの拡大継続	①荷姿改善 レンタルパレットの導入 ②共同集配 サプライヤー共配実施 ③コンテナラウンドユース(CRU) 自社の輸出入コンテナのラウンド拡大 ④輸送L/T短縮 欧州向け海上サービス変更 ⑤モーダルシフト500km以上の国内輸送の鉄道継続	A	地球環境へ配慮した物流活動の推進 ①拠点集約による効率化 ②共同集配による輸送便の削減 ③コンテナラウンドユースの拡大 ④輸送L/T短縮による在庫圧縮 ⑤モーダルシフトの継続
人財育成	①階層別研修の実施 ②次世代リーダー等選抜研修の実施 ③管理能力向上の通信講座	①階層別研修(全5階層) 実施率:100%(計10回) 受講率:100%(276名) ②選抜教育(全5研修) 実施率:100%(計5回) 受講率:100%(78名) ③教育体系見直しに伴い2017年度は中止	A	①階層別研修の実施 ②選抜研修の実施 ③経営人財育成教育の実施	
社員	ダイバーシティ	障がい者雇用率:2.4%(現:2.3%) 女性社員採用、仕組みによる基盤強化	2.7% ①2017年度の女性新卒採用者は全採用者の22% ②これまでの活動内容を総括し、目標を再設定し、行動計画見直し実施	A	①女性管理職数を2014年時点に対し、2020年に3倍、2030年に5倍 ②新卒採用時の女性比率を15%以上 ③リーダー人材育成強化を実施 生産性を高める働き方を整備
	安全衛生 /ワーク ライフ バランス	【安全】 ①基本ルールの徹底、継続 ②KPI指標月次管理 ③職場環境改善活動の継続と徹底 【衛生】 ①職場改善活動の継続実施 ②第2回ストレスチェック診断実施	【安全】 ①日常安全活動と安全衛生5カ条の徹底 ②安全に対する意識改革とリスク改善のレベルアップを展開し、職場環境改善の実施 【衛生】 ①2017年8月にストレスチェック実施 受検率99.6% ②全社安全衛生方針に基づき、全員参加の職場 ③環境改善実施 ④改善事例・良好実践事例:400件 ⑤メンタルヘルス対策として管理監督者教育、新入社員の保健師全員面談を実施	B	【安全】 ①安全基本行動再構築と全従業員教育 ②変化点管理に基づくRA実施と改善 ③日常安全活動「安全衛生5カ条の徹底」 ①過重労働撲滅のための働き方改革推進 過重労働者(時間外45h以上 & 3カ月継続)ゼロ ②自身の健康リスク把握による気づき促進
株主・投資家	コミュニケーション	①持株会社体制下での経営トップと株主、投資家との対話活動の構築と充実 ②情報開示内容と機会の充実 ③決算開示までの日程短縮	①ホールディングス経営トップによる株主総会、年2回の投資家向け決算説明会での直接説明のほか、機関投資家向け訪問等により双方向の対話を実施 ②中期経営計画を公表、その進捗については適宜、開示 ③前年並みの開示日程。第3四半期では1日短縮	A	①フェアディスクロージャーの実践 ②非財務項目での株主対話強化(ESG)
地域社会	地域貢献活動	グローバル全拠点において地域と連携を図った社会貢献のさらなる推進 ①教育支援 ②災害復興支援 ③社会福祉支援 ④環境保全 ⑤スポーツ振興	①男女共同参画社会実現のため、群馬大学理工学部と県内の女子中高生を対象とした「リコチャレ」を実施 他、グローバル各拠点において社会貢献の実施(詳細はホームページに掲載) https://www.sanden.co.jp/environment/activity.html	A	グローバル全拠点において地域と連携を図った社会貢献のさらなる推進 ①教育支援 ②災害復興支援 ③社会福祉支援 ④環境保全 ⑤スポーツ振興
取引先	CSR調達展開 コミュニケーション	①紛争鉱物および、国内下請法の運用基準強化対応 ②MPS会取引先および、コア取引先とのコミュニケーション強化 ③MPS会活動活性化による取引先体質強化の展開(127活動) ④G-CF会開催によるG優良取引先との関係強化	①紛争鉱物対応、拠点間取引の運用ルール決め 下請法教育・eラーニング全社展開実施 ②MPS会取引先を中心に事業懇談会を開催、中期取引先内容を合意 ③QCストーリー勉強会を開催し、PDCAプロセス習得および現場改善活動支援実施 ④G-CF会を開催しコアサプライヤー出席(国内61社、海外22社、計167名)。2018年度の方針展開と、1年間の活動への感謝を込めて、多大な貢献をいただいたサプライヤーへ表彰状を贈呈	A	①紛争鉱物および、下請法の取り組み強化継続 ②MPS会取引先およびコアサプライヤーとのコミュニケーション強化継続 ③2019年G-CF会開催によるコアサプライヤーとの関係強化 ④サプライチェーンにおける環境活動取り組み(CO <sub>2</sub> 排出量管理)